“ふるさと所沢”の再生をめざして

環境の世紀の道しるべ

ふるさと…。私たちの心をいやすその響きは、誰の胸の内にもあるものでしょう。世代を超えて、ふるさとへの思いは、古き良き原風景を呼び覚ませ、それはやがて子どもたちに受け継がれていきます。

私たちは、“今ある環境”を少しでもよい形で次代を担う子どもたちに引き継いでいかなければなりません。それは、子どもたちが大人になったとき、繰り返し、その子どもたちに“ここが私のふるさと”と伝えていくためでもあります。

今回は、“環境の世紀”とも言われる21世紀を迎えた所沢市の環境施策の現況等についてお知らせします。

▶若狭山の神市民の森

20世紀の遺した教訓

科学技術の著しい進歩に伴い発展した経済社会は、私たちに「便利な生活、豊かな暮らし」をもたらしました。しかしその反面、大量生産・大量消費・大量廃棄型のライフスタイルは、「負の遺産」として、「地球規模におよぶ環境問題の解決」という大きな宿題を私たちに遺しました。

一度でも便利な生活を知ってしまった私たちは、生活環境の改善に向けて、果たしてどこまで自らのライフスタイルを転換していくことができるのでしょうか。そして、少しでも良い環境をつくり出し、次代につなげていくことができるのでしょうか。

“環境の世紀”とも言われる21世紀となった今、私たちの行動が問われています。

次代につなげる環境ビジョン ―所沢市環境基本計画―

市では、こうした状況を見据えて、平成11年2月、「所沢市環境基本計画」を策定しました。この基本計画では、「次代につなげる環境ビジョン」を左上図のとおり掲げています。

●次代につなげる環境ビジョン

望ましい環境像
自然を大切にし、環境への負荷の少ない
持続的発展可能なまち　ところざわ

環境目標
- 健康で安心して暮らせる安全なまち
- 潤いと安らぎを感じる快適なまち
- 地球環境に やさしい循環型の まち

参加と協働による環境を考えるまちづくり

◀ふるさとの花再生事業

計画の策定にあたっては、多くの市民の皆さんが、望ましい環境の要因として「安全」「快適」「循環」をあげています。具体的には、廃棄物の適正処理を行いダイオキシン類を削減して、「健康で安心して暮らせる生活」、緑の豊かさと歴史・文化的環境に彩られた「潤いと安らぎのある生活」、省エネとリサイクルに取り組む「地球環境にやさしい生活」など、人の営みと自然との調和を持続することが望まれています。

平成12年度中の主な施策・事業の実績

環境基本計画に掲げた3つの環境目標「健康で安心して暮らせる安全なまち」「潤いと安らぎを感じる快適なまち」「地球環境にやさしい循環型のまち」に沿った、それぞれ代表的な施策・事業の実績は次のとおりです。

■ダイオキシン類の削減

「ダイオキシン類削減総合対策基本方針」に基づき、ダイオキシン類規制条例の施行および監視パトロールの強化、廃棄物焼却炉の撤去事業や家庭用小型焼却炉の無料回収、野焼き等の禁止に関する啓発事業などを実施しました。

その結果、平成12年度には、大気中のダイオキシン類濃度は平成9年度に比べ、76％削減されました（表1参照）。

■緑地の保全

“ふるさと所沢”の代名詞ともいえる自然環境の保全を進めるため、公園など緑地の公有地化をはじめ、地権者のご協力により市民緑地や市民の森、保護地区の指定などの事業を通じて、緑地の保全に努めています。

平成12年度末の緑地保全面積は、平成8年度末に比べ、14・5％増えています（表2参照）。

■リサイクルの推進

ごみ集積場から分別回収された資源ごみをはじめ、集団資源回収やファイバーリサイクルなどの取り組みを通して、平成12年度の総ごみ量に対するリサイクル率は18・2％になっています。

平成22年度における目標値30％をめざして、引き続きリサイクルの推進に取り組んでいきます（表3参照）。

平成13年度の主な新規事業

■ふるさとの花再生事業

かつて市内で普通に見ることができ、本市の自然を特徴づけた植物（エビネ、シュンラン、ヤマユリ、秋の七草など）を市民の森などに復活させ、安らぎと潤いのある環境づくりを進めます。

■キッズISOプログラム

ISO14001国際規格の理念を用いた子ども向けの環境学習プログラムです。

子どもたちが中心となって、家族とともに家庭の中で省エネ・省資源活動を実践します。夏休みを中心に、市内約千人の小学5～6年生が取り組みます。

■事業者の環境行動支援

環境に配慮した事業活動の普及を図るため、環境マネジメントシステム導入経費を助成する補助事業を行います。また、市と事業者のパートナーシップに基づき環境保全協定の締結を進め、市内の環境推進に努めていきます。

“ふるさと所沢”の再生をめざして

基本計画では、平成22年度を目標年度として、322の施策・事業に取り組んでいます。

市では、“ふるさと所沢”の再生を21世紀の道しるべとして、これまでの取り組みをさらに推進するとともに、新たな事業にも着手していきます。

計画の実現に向けて、今後とも市民や事業者の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

問い合わせ　環境総務課（内998―9133）

▲市職員によるキッズISO14000sの説明のようす

【単位の説明】
- ●pg（ピコグラム）…1兆分の1グラム
- ●TEQ（毒性等量）…ダイオキシン類は毒性がそれぞれ異なるため、最も毒性の強い2，3，7，8―テトラクロロジベンゾパラジオキシンを基準にした係数を掛けて、換算したもの

表1：ダイオキシン類大気環境調査結果の経年変化　［単位：pg-TEQ/㎥］

年　度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
年平均値	0.78	0.50	0.24	0.19
削 減 率		36%	69%	76%

◎平成11年度までは大気環境指針値［0.8pg-TEQ/㎥］、平成12年度からは大気環境基準値［0.6pg-TEQ/㎥］が適用されます。

表2：緑地面積の割合　［単位：ha］

年　度	平成8年度	平成12年度
指定整備した緑地面積	170.35	195.14
（その内公有地化した面積）	(22.84)	(30.95)
増 加 率		14.5%

表3：総ごみ量に対するリサイクル率

年　度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
リサイクル率	13.0%	15.8%	16.2%	18.2%

市民にできることから始めよう

大島　篤三さん（神米金在住）

我が家では太陽光発電システムを設置し、1か月の消費電力の5分の4程度を発電しています。仕事で長く滞在したモンゴルでは生活のすべてが自給自足、電気は風力発電ですから環境に負荷を与えません。帰国後、同様に自然を生かしたこのシステムを知り、早速導入しました。

近くを散歩中にたびたびポイ捨てのごみを拾います。昔は自宅の周りを掃除するのは、当たり前のことでした。身近な所から環境を良くすることは市民の務めだと思います。

子どもと一緒に実践しました

望月恵美子さん（荒幡在住）

昨年、娘がキッズISOの入門編に挑戦しました。毎日何気なく使っている電気、ガス、水道のメーターや燃やせるごみ量をチェックし、家族みんなで節約に協力しました。

これからの環境を考えるために、非常に良い経験だったと思います。

夏休みに行う初級編も、楽しみながら取り組めそうです。

私自身もエコマークの商品を購入するなど、環境にやさしい生活に配慮しています。いつまでも緑豊かな所沢であってほしいですからね。

市長インタビュー

新世紀ところざわの環境づくり

●21世紀を迎え、所沢市をとりまく環境のあり方をどのようにお考えでしょうか。

斎藤市長　私が子どものころは、家の周り一面が畑に囲まれていました。麦畑にひばりが上り下りするのどかな風景で、雑木林や草花だけでなく、畑の農作物や麦穂が緑豊かな環境の大切な要素を担っていたと思います。

その後、所沢市は人口の急増を背景に都市化が進展しました。それに伴い、首都近郊に位置する自治体の宿命ではありますが、徐々に市街地の緑が失われていきました。

しかしながら、当市の場合、一歩足を伸ばせば市内各所に豊かな自然が残されています。21世紀のまちづくりは、都市の成長と自然環境の保全の両面のバランスを図りながら進めていくことが重要な課題だと考えています。

●“ふるさと所沢”再生に向けて一言お聞かせください。

市　長　緑豊かな自然環境を守り、その恩恵を次代に伝えていくことは私の使命でもあります。同時に、市民の皆さんには、ぜひ市内の市民緑地や市民の森に積極的に足を運んでいただき、大いに活用してほしいと思います。かけがえのない緑に実際に触れ親しむことを通じて、自然が与えてくれる潤いや安らぎを残そうという気持ち、言いかえれば“ふるさと所沢”の再生への思いが自ずと育まれ、一人ひとりの行動へ積み重なっていくものと考えています。

市では、自然環境の保全と生活環境の改善を環境施策の2つの柱として、今年度新たに、ふるさとの花再生事業やキッズISOプログラムの導入等を開始しました。新世紀ところざわにふさわしい、よりよい環境像の早期の実現に向け、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

市の環境の現況や環境基本計画の進捗状況については、冊子「所沢市の環境・平成12年度版」に公表しています。市役所高層棟2階・環境総務課で配布しています。ぜひ一度ご覧ください。